

## 今年の指定校入試の特徴

大学が指定した基準を満たせば確実に進学することが出来ます。これを指定校入試と言います。通常「評定平均が 3.2 以上、3年間の欠席が15日以内」という基準が多い様です。大学の全入時代を迎え、贅沢を言わなければ進学希望者全員がいずれかの大学へ進学出来る時代になりました。大学側も存続を巡り、優秀な学生を出来るだけ多く獲得しようと色々工夫しています。そんな流れを箇条書きすれば次の様になります。

1. 大学側が指定する評定平均が去年より低い大学が多い。3.5 → 3.2、3.2 → 3.0 など。  
それだけ多くの生徒を必要としていることと思います。逆の場合はまずありませんでした。
2. 面接を果たしている大学がほとんどである。例外は日本工業大学で面接一切無し。それだけ箕輪進修高校とのつながりも長く、また信頼されている事と思います。
3. 人気獲得の為でしょうか、学校名が変わった大学も有ります。大同工業大学 → 大同大学、
4. 学校名が来年度から変わる大学  
京都創成大学 → 成美大学、京都短期大学 → 成美大学短期大学部 など。
5. 併設している短期大学部分を4年制大学に吸収する学校も有り。
6. 今年から初めて指定校推薦を頂ける大学もあります。校名は次のとおり。  
NBU日本文理大学、金沢工業大学、静岡産業大学、多摩大学、東京未来大学、名古屋分離大学、北京外国語大学、岐阜保健短期大学、高山自動車短期大学など。お勧めは金沢工業大学です。  
なお専門学校は数が多く把握しにくいので省略しました。
7. 短期大学から4年制大学へ昇格した学校も有ります。山梨英和短大 → 山梨英和大学
8. 特待生入試及び授業料免除措置をする大学が増えました。具体的には評定平均4.0以上の生徒を特待生扱いにして授業料減免をするケース。良い学生を欲しいと言うことでしょうか。
9. 指定校受験の条件に添削指導を果たす大学も有ります。
10. グループ面接を果たす学校もあります。

### 7月10日現在で指定校推薦を頂い

た大学は右の表の様になりました。

とりあえず10日現在で集計しました。例年指定校推薦を頂いている大学からまだ届いていない学校もあります。しばらく待たばさらに指定校の数は増える事が予想されます。出そろったら再度報告+告する様にします。

指定校推薦を頂いた学校数				
年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4年制大学	81	95	93	88
短期大学	25	30	34	27
専門学校	45	55	70	70

### 22年度指定校を一覧表にしてプリントし配布します

4年生大学、短期大学、専門学校の順序で分類し、それぞれ学校名を辞書順にして並べてあります。推薦基準、試験日、定員など、必要最低限の情報が一覧表にのっています。詳細はオリジナルの資料をご覧ください。収納場所は進路指導室左奥の部屋の棚となっています。